



第3次 名張市農業マスタープラン

<概要版>

2018～2027

名 張 市

I マスタープラン策定の考え方

1 | 策定の趣旨

近年、名張市においては、農業・農村における高齢化や人口減少が進み、生産力や農村活力が低下傾向にあります。一方、外部環境においては、国の平成30年産米からの米政策の見直しや環太平洋パートナーシップ協定（TPP）等による農業のグローバル化への対応も迫られています。

このような中、第3次名張市農業マスタープランは、名張市の農業・農村の持続的な発展に向けて、目指すべき将来像と、その実現のための手段を示す総合的かつ基本的な計画として、名張市農業マスタープラン（平成10年度～平成17年度）、第2次名張市農業マスタープラン（平成18年度～平成27年度）に引き続き、策定するものです。

2 | 計画の性格

この計画は、名張市の農業・農村施策の基本方向と取り組むべき施策を取りまとめるものであり、名張市総合計画「新・理想郷プラン」に即した農政の基本計画として位置付けます。

また、本計画の推進に当たっては、農業者、農業団体、行政などの農業関係機関をはじめ、市民の幅広い参画を得ることとします。

3 | 計画の期間

この計画は、2018年度を初年度とし、2027年度を目標年とする10か年計画とします。また、計画期間中に関連法案や諸情勢の変化等により計画の内容に重大な影響を及ぼす場合には見直しを行います。

4 | マスタープランの構成

- 序 章 マスタープラン策定の考え方
- 第1章 名張市の農業の現状と課題
- 第2章 名張市の農業の基本理念と将来像
- 第3章 施策の展開
- 第4章 “なばり農業”をかたちづくる地域別農業振興

Ⅱ 名張市の農業・農村の現状(特徴)と課題

1 | 農地と農村環境

- ・農山村、住宅地、歴史ある中心市街地が隣接して調和しているまちです。
- ・経営耕地面積が、40年間で約45%減少しました。
- ・耕作放棄地は増加傾向にあります。
- ・中山間地域を中心に、シカ・イノシシなどによる農作物への被害が増加傾向にあります。
- ・地域づくり組織が主体となって地域ぐるみで取り組む酒米づくりやキノコの栽培等、新たな6次産業化の取組が生まれています。

2 | 農業者

- ・農業従事者数が、40年間で71%減少しました。
- ・農業従事者の高齢化や後継者不足が深刻化しています。
- ・経営が小規模な農家が多数存在しています。
- ・認定農業者数は、毎年40～50名程度で推移しています。
- ・新規就農者数は、毎年0～5名程度で推移しています。
- ・約48%の農家が、現状の農業経営の継続を希望しています。
- ・名張市での就農を希望する市外の住民からの相談があります。

3 | 農業生産・収入

- ・経営が小規模な農家による少量・多品目の野菜の生産が主流となっています。
- ・農家アンケートによると、農業収支については、約69%の農家が赤字と答えています。
- ・伊賀米、ブドウ、伊賀牛、美旗メロンなどの産地化、ブランド化に成功しています。
- ・一部の地域で、米や野菜の有機栽培が行われています。
- ・滝之原に農産物加工所がオープンし、地域連携型の6次産業化の取組が始まっています。
- ・国津の旧小学校校舎をワイン醸造所に改修し、醸造用ブドウ栽培とあわせた地元産ワインづくりの取組が始まりつつあります。

4 | 農家と住宅地住民のふれあいの場づくり

- ・非農家アンケートによると、農作業をしたことが無い市民のうち約36%が、今後、何らかの形で農業をやってみたいと考えています。
- ・非農家アンケートによると、約55%の市民が、名張市産の農産物を購入している。その他、約33%の市民が、今後、購入したい意向を持っています。

5 | 農業と他分野の連携

- ・名張市障害者アグリ雇用推進協議会によって、全国に先駆けて農業分野における障害者の就労を推進する農福連携の取組を進めてきました。

Ⅲ 基本理念と3つの将来像

1 | 名張市の農業・農村の基本理念

名張市の特色をいかした 農業・農村の新たな価値創造

2 | 目指すべき3つの将来像

(1) 多彩な担い手が活躍する“なばり農業”

認定農業者等の自立農業者や農業組織、自立を目指す市内外からの新規就農者、経営の本格化を目指す既存小規模農業者、様々な動機で農業参入する事業者・生活者など、意欲ある多彩な担い手の確保を図ります。

また、農地の集約化、営農支援体制の構築、農業生産基盤の整備等を進めることで、担い手がそれぞれの長をいかしていきいきと農業を営み、持続的に発展していくことができる農業構造の確立を目指します。

(2) 価値の高い農産物づくりをめざす“なばり農業”

農業を若者にとっても魅力のある産業としていくため、市内外における需要の取り込みや6次産業化などにより、収益性の向上と高付加価値化を意識した魅力ある農産物づくりに取り組み、「もうかる農業」の実現を目指します。

また、市民の「食」に対するニーズに的確に応えるとともに、TPPや米政策の見直しへの円滑な対応を図り、新鮮で安全・安心な農産物を安定的に供給する体制づくりに取り組みます。

(3) 市民と交流し、他分野と連携する“なばり農業”

福祉・観光・商工業・子育て等、他分野との連携によっても農業・農村の新たな価値の創造を目指します。また、豊かな自然や美しい景観、食文化など、農業・農村の有する多面的機能の維持・発揮に取り組みます。

さらに、農業を守り、育てるため、農業体験やイベント、市民農園等を通じて、市民や市外の人々が、農業・農村の魅力に触れ、理解を深めることができる機会づくりに取り組みます。

IV 施策の展開

将来像	基本施策	施策															
1 ・多彩な担い手が活躍する“なばり農業”	(1)多彩な担い手の育成・確保	①認定農業者の育成・確保 ②新規就農者の育成・確保 ③集落営農組織・農業法人の育成・確保 ④小規模経営農家への支援 ⑤他分野からの参入者・女性農業者・定年就(帰)農者等への支援															
	<table><tr><th>指標項目</th><th>現状値(2016)</th><th>目標値(2027)</th></tr><tr><td>認定農業者数</td><td>40人</td><td>47人</td></tr><tr><td>新規就農者数(年間)</td><td>2.6人</td><td>3人</td></tr></table>	指標項目	現状値(2016)	目標値(2027)	認定農業者数	40人	47人	新規就農者数(年間)	2.6人	3人							
	指標項目	現状値(2016)	目標値(2027)														
	認定農業者数	40人	47人														
	新規就農者数(年間)	2.6人	3人														
(2)持続的な営農体制・営農支援体制の構築	①農地の集約化の推進 ②人・農地プランの策定・見直し支援 ③関係機関・団体による支援																
<table><tr><th>指標項目</th><th>現状値(2016)</th><th>目標値(2027)</th></tr><tr><td>担い手への農地の集積面積</td><td>89ha</td><td>136ha</td></tr><tr><td>「人・農地プラン」策定数(地域)</td><td>3プラン</td><td>6プラン</td></tr></table>	指標項目	現状値(2016)	目標値(2027)	担い手への農地の集積面積	89ha	136ha	「人・農地プラン」策定数(地域)	3プラン	6プラン								
指標項目	現状値(2016)	目標値(2027)															
担い手への農地の集積面積	89ha	136ha															
「人・農地プラン」策定数(地域)	3プラン	6プラン															
2 ・価値の高い農産物づくり	(1)需要に応じた農業の推進	①需要に応じた農業の推進 ②作物ごとの生産振興 ③食の安全・安心の推進															
	<table><tr><th>指標項目</th><th>現状値(2016)</th><th>目標値(2027)</th></tr><tr><td>伊賀米の「特A」評価取得</td><td>—</td><td>毎年</td></tr></table>	指標項目	現状値(2016)	目標値(2027)	伊賀米の「特A」評価取得	—	毎年										
	指標項目	現状値(2016)	目標値(2027)														
	伊賀米の「特A」評価取得	—	毎年														
	(2)魅力ある農産物づくり	①地域特性を活かした付加価値の高い農産物づくり ②農業の6次産業化の推進 ③多様な流通・販売体制の整備と地産地消の推進															
<table><tr><th>指標項目</th><th>現状値(2016)</th><th>目標値(2027)</th></tr><tr><td>名張市の農産物の消費量や知名度が高まっていると感じる市民の割合</td><td>44.4%</td><td>50.0%</td></tr><tr><td>地元農産物を取り扱う直売所・青空市等</td><td>8箇所</td><td>10箇所</td></tr></table>	指標項目	現状値(2016)	目標値(2027)	名張市の農産物の消費量や知名度が高まっていると感じる市民の割合	44.4%	50.0%	地元農産物を取り扱う直売所・青空市等	8箇所	10箇所								
指標項目	現状値(2016)	目標値(2027)															
名張市の農産物の消費量や知名度が高まっていると感じる市民の割合	44.4%	50.0%															
地元農産物を取り扱う直売所・青空市等	8箇所	10箇所															
3 ・市民と交流し他分野と連携	(1)人々が交流する美しいむらづくり	①農業・農村の多面的機能の維持・発揮の促進 ②環境にやさしい農業の推進 ③農業イベント・農業体験等の場の創出															
	<table><tr><th>指標項目</th><th>現状値(2016)</th><th>目標値(2027)</th></tr><tr><td>多面的機能支払制度取組主体数</td><td>24組織</td><td>26組織</td></tr><tr><td>中山間地域等直接支払制度取組主体数</td><td>15組織</td><td>15組織</td></tr><tr><td>環境保全型農業直接支払制度</td><td>893a</td><td>1,000a</td></tr><tr><td>市民農園の利用率(区画単位)</td><td>74%</td><td>100%</td></tr></table>	指標項目	現状値(2016)	目標値(2027)	多面的機能支払制度取組主体数	24組織	26組織	中山間地域等直接支払制度取組主体数	15組織	15組織	環境保全型農業直接支払制度	893a	1,000a	市民農園の利用率(区画単位)	74%	100%	
	指標項目	現状値(2016)	目標値(2027)														
	多面的機能支払制度取組主体数	24組織	26組織														
	中山間地域等直接支払制度取組主体数	15組織	15組織														
環境保全型農業直接支払制度	893a	1,000a															
市民農園の利用率(区画単位)	74%	100%															
(2)農業と他分野との連携	①農福連携の推進 ②商工業、観光、子育て等と連携した農業の推進																
<table><tr><th>指標項目</th><th>現状値(2016)</th><th>目標値(2027)</th></tr><tr><td>農業分野への障害者の新規雇用数(年間)</td><td>6人</td><td>8人</td></tr><tr><td>観光農園入込客数</td><td>47,492人</td><td>60,000人</td></tr></table>	指標項目	現状値(2016)	目標値(2027)	農業分野への障害者の新規雇用数(年間)	6人	8人	観光農園入込客数	47,492人	60,000人								
指標項目	現状値(2016)	目標値(2027)															
農業分野への障害者の新規雇用数(年間)	6人	8人															
観光農園入込客数	47,492人	60,000人															

V “なばり農業”をかたちづくる地域別農業振興

本計画では地域の特性をいかした農業振興を図る観点から、次の地域区分により地域別の農業振興の方向を示しました。

1 | 北部地域の農業振興計画(薦原・美旗)

- ・基盤整備田における中・大型機械による一貫作業体系の確立、基本栽培技術の徹底による良質米の安定生産を図ります。
- ・トマト、ネギ、メロン、ブドウ等の生産振興を図ります。
- ・有機農業や水耕栽培等の生産振興を図ります。
- ・認定農業者、自立的な大型受託農家、集落営農組織等に対する支援を行います。
- ・豊かな歴史資源等を活用し、美旗古墳群を中心とした田園歴史ミュージアム構想の具体化を進め、周辺農地の有効活用や農村文化の継承並びに都市住民との交流を図ります。

2 | 市街近郊地域の農業振興計画(名張・蔵持)

- ・トマト、イチゴ等を中心とした収益性の高い施設園芸の振興を図ります。
- ・肉用牛の生産から販売に至る食の安全・安心を確保した畜産振興を推進します。
- ・市街地にある特性をいかした6次産業化に取り組む“多彩な担い手”を支援します。
- ・優良農地の保全と土地の有効利用、高度利用等の都市の活力向上に資する土地利用との整合を図り、多様な取組による都市型の農業振興に取り組みます。
- ・周辺の住宅地住民と結びついた農業の振興を図ります。

3 | 東部地域の農業振興計画(比奈知・国津)

- ・独自の販売ルートを有する環境保全型農業による水稻や少量多品目野菜の生産を推進します。
- ・地域の農産物加工所と連携して、露地野菜を中心に付加価値の高い生産を拡大します。
- ・肉用牛の生産から販売に至る食の安全・安心を確保した畜産振興を推進します。
- ・中山間地域における集落単位の農地の維持活動が持続的・安定的に行われるよう“多彩な担い手”の確保等の支援を行います。
- ・農地や農村の周辺の森林を整備し、農地や農村環境の保全を図ります。
- ・旧小学校校舎を利用したワイン醸造場を新たなブドウ振興、地域活性化の拠点として位置付け、育成を図ります。

4 | 南部地域の農業振興計画(錦生・赤目・箕曲)

- ・ブドウ・イチゴの観光農園に対する支援を行います。
- ・特別栽培米や野菜などの有機栽培による生産を支援します。
- ・地域づくり組織が行う酒米づくりやキノコ栽培等の取組を支援するとともに、地域づくり組織が地元農産物を活用して行う新たな6次産業化の取組の掘り起しや支援を行います。
- ・豊富な観光資源を活用して、農泊や農業体験を核とした観光資源の開発に取り組みます。

図1-“多彩な担い手”とは

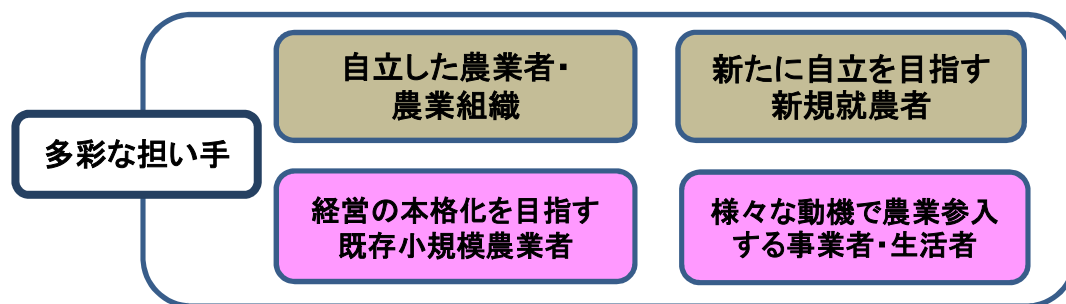
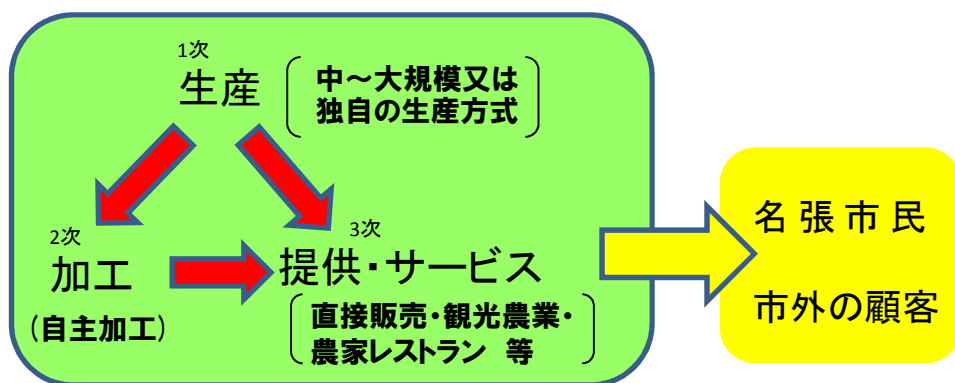


図2-名張市における6次産業化の考え方

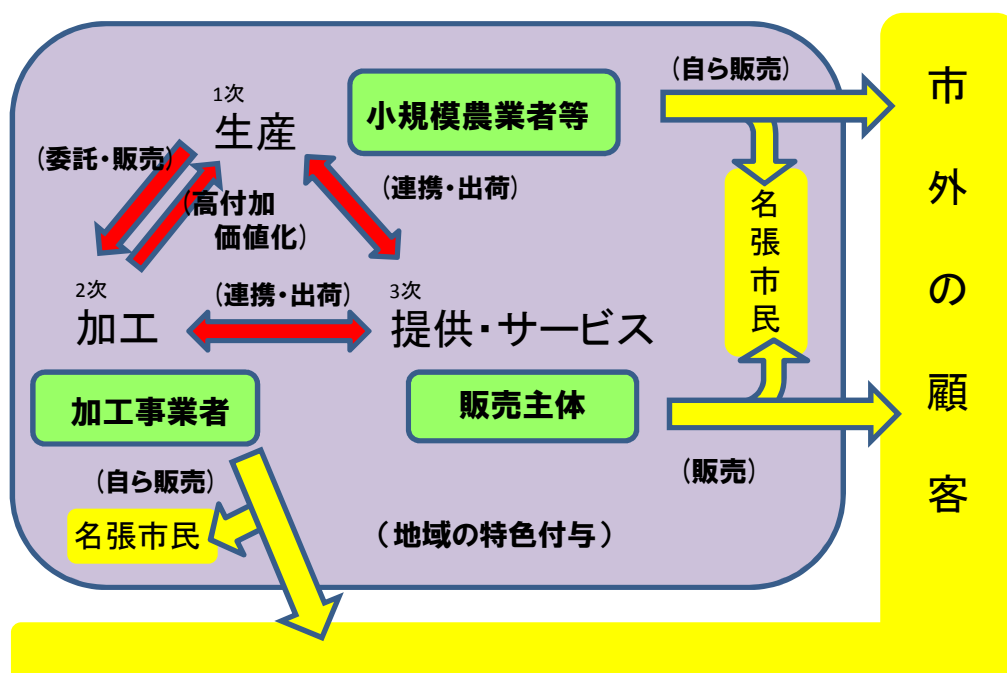
1 経営内での6次産業化タイプ

(自立農業者、他分野から参入する比較的大きな事業者等による取り組み)



2 名張市(地域)内での6次産業化(農商工連携)タイプ

(小規模な農業者、様々な動機により農業に参入する比較的小さな主体による取り組み)





名張市 産業部 農林資源室

〒518-0492 三重県名張市鴻之台 1 番町 1 番地

TEL 0595-63-7625

FAX 0595-64-0644

E-mail nourin@city.nabari.mie.jp

HP <http://www.city.nabari.lg.jp>